

ルクセンブルク経済・金融情勢（2017年10月）

1 統計関連

- 2017年10月のインフレ率は年率で1.90%（前月1.76%）。（11月8日付統計局プレスリリース）
- 2017年9月の失業率は6.0%（前月6.0%，前年同月6.3%）。（10月20日付統計局及び職業安定所プレスリリース）
- 2017年9月の求職者数は前年同月比で3.6%下がった。（10月20日付 Wort 紙）
- 2017年10月の消費者信頼感指数は+17（前月+14）。（10月31日付統計局プレスリリース）
- 2017年上半期におけるルクセンブルクの国際収支は8億8400万ユーロの黒字であった。（10月2日付統計局プレスリリース）
- 2017年の第2四半期における実質GDPが2.2%上昇した。（10月10日付 Wort 紙）
- フィッチ・レーティング社が、ルクセンブルクは2017年から2019年の間も引き続き年間平均4.1%の経済成長を見込めると予測した。また、その安定性から、ルクセンブルクは引き続きトリプルエー（AAA）に格付けられた。（10月14日付 Wort 紙）
- ルクセンブルクにおける起業者数はルクセンブルクの総労働者数の9.2%を占め、これは、EUの平均の8.6%を上回った。（10月24日付 Wort 紙，統計局プレスリリース）
- 管理職に就いている女性の割合は、ルクセンブルクでは18%であり、これはEUの平均の33%を下回り、さらにEU諸国の中で最低の割合となった。一方で、ルクセンブルクでは女性は男性よりも長い間教育を受け、大学や大学院に進学する傾向があり、これはEUの傾向とは逆である。（10月24日付 Wort 紙）
- ルクセンブルク国内の不動産価格が過去12ヶ月で平均6%上昇している。さらに、賃貸価格に関しては、過去12ヶ月でアパートは4%，一軒家は12%上昇している。（10月16日付 Wort 紙）
- オフィス用テナントの賃貸料はルクセンブルク市内において1平方メートルあたり月平均50ユーロに値上がりし、これは昨年と比べると11.1%の値上がりとなった。一方でキルシュベルク地区は月平均35ユーロ，中央駅付近は月平均36ユーロの値上がりとなった。（10月26日付 Wort 紙）

2 政府等関連

- 2018年予算案によると、国債残高の対GDP比は2018年は22.7%になる見込み（ユーロ圏平均は89.5%）。また、ルクセンブルク統計局によると、2018年

のインフレ率は1.8%,失業率は5.6%と推測される。(12日付 Chronicle.lu 紙)

● 政府の2016年決算は2億5680万ユーロの歳出超過におわり,当初の予算案よりも1億8140万ユーロ歳出超過が少ない状態となった。(10月5日付 Chronicle.lu, Wort 紙)

● 政府の2017年上半期における支出は前年比8.2%増となり,収入の前年比7.7%増を上回った。結果,9100万ユーロの歳出超過となった(前年同時期は4700万ユーロ)。(10月6日付 Wort 紙)

● 欧州中央銀行のドラギ総裁によれば,ルクセンブルクは2012年以降のギリシャに対する貸し出しに係わる利息,およそ402万ユーロをギリシャに返さなければならない可能性があるとした。(10月13日付 Wort 紙)

● 2016年にルクセンブルクはOECDに対して3億8400万ユーロを政府開発援助資金として拠出しており,これはルクセンブルクの国内総所得のおよそ1%を占め,OECD諸国内でノルウェーに次いで第2位の「寛容な」国となった。なお,2015年の援助額は3億6300万ユーロで,これに比べ5.8%増。(10月19日付 Wort 紙)

● 財務省と公共事業省はBCEE(国立貯蓄銀行),BIL(ルクセンブルク国際銀行,Foyer(保険会社)と共同で,官民パートナーシップを強化する目的で森林及び気候変動ファンドを立ち上げた。本ファンドは熱帯地域における森林破壊と森林伐採を管理するための資金を,企業,コミュニティ,そして小規模農家に提供する。すなわち,持続可能な土地及び森林管理と,経済的,環境的そして社会的な発展の可能性を中央アメリカ諸国,特にコスタリカ,グアテマラ,ニカラグアに与える目的を持っている。(10月20日付 Chronicle.lu, 22日付 Wort 紙)

● COP21の目標を満たすために,ルクセンブルクはリトアニアから少なくとも700GWhの再生可能エネルギーによる電力を2018年から2020年の間提供してもらう合意書を締結した。リトアニアは2020年までの再生可能エネルギーの普及及び使用目標を2015年のうちに満たしている一方で,ルクセンブルクは同目標値11%のうちわずか5%しか実現できていない。(10月26日付 Wort 紙)

● ルクセンブルク市内で現在建設中のトラムは,2020年までにフィンデル空港からクロッシュドル(Cloche d'Or)地区の新スタジアムまでの総延長16.4キロに拡大する予定である。本年12月10日より,同トラムはキルシュベルク(Kirchberg)地区内ルクスエキスポから赤橋(the Red Bridge)までの間の8駅で運転を開始する。2018年の夏までにはベルエアー(Belair)地区のStareplaz(Place de l'Etoile),2019年の末までには中央駅(Gare)地区のPlace de Parisまでと,徐々に拡大していく予定である。(10月14日付 Wort 紙)

● 9月27日にEUにおける住宅に関するマイクロファイナンス企業に与えられる賞のファイナリストが発表され,アフガニスタン,ペルー,メキシコのマイクロファイナンス企業がノミネートされた。(10月2日付 Chronicle.lu)

- グレーベンマッハー (Grevenmacher) 市に 23 の手ごろな価格のアパート (affordable housing) を 1 平方メートルあたり 10 ユーロで貸し出すプロジェクトを、政府が始めることを表明した。それぞれのアパートはおよそ 80 から 85 平方メートルであり、一般的なアパートの賃貸価格の約 60% で貸し出しとなる予定である。(10月1日付 Wort 紙)
- 欧州投資銀行 (EIB) はキルシュベルグ地区にある現在の建物の隣に 16 階建ての新しいオフィスを建てることを決定し、その建設プロジェクトのマネージャーとデザインチームを公募しはじめた。(10月20日付 Wort 紙)
- 欧州検察庁 (EPPO: the European Public Prosecutor's Office) の創設が EU 議会によって認可された。EPPO は金融面における汚職をなくすために情報の共有をスムーズにし、警察と協力することで、素早い資本の凍結を各国内だけでなく、国境を越えても可能にすることを目的として創設される予定である。(10月5日付 EU 議会プレスリリース)

3 企業関連

- EU 委員会はルクセンブルクに、Amazon 社から 2 億 5000 万ユーロの税金と利息を徴収するよう勧告した。EU 委員会はルクセンブルクが Amazon 社に違法に税金優遇をしているとしたが、Amazon 社はこれに同意していない。(10月4日付 Wort 紙)
- あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が Brexit をふまえて、イギリスにある欧州事業拠点をルクセンブルクへと移転することを公表した。移転後はイギリスには英国での事業会社と、持ち株会社を設立する予定である。(10月31日付 Wort 紙, あいおいニッセイ同和損保プレスリリース)
- ユニオンペイ中国 (中国銀聯, China UnionPay) は、ルクセンブルクでの業務運営を開始することで EU 市場での拡大を狙うことを発表した。(10月3日付 Wort 紙)
- Citi グループのプライベートバンキング部門は Brexit に備えて、ルクセンブルクに営業所を開くことを明らかにした。Citi グループ自体はルクセンブルクに支社を 1970 年から開いているが、この新しい営業所を開くことで、「ハードブレグジッド」が起きたとしても変わらず EU の顧客にサービスを提供できるようになっているとしている。(10月12日付 Wort 紙)
- ルクセンブルク旧市街中心部 (ロイヤルハマリウス) にて建設されている商業施設に付随する 73 室のアパートのうち 3 分の 1 がすでに売約済みである。このアパートは 40 平方メートルから 123 平方メートル、スタジオサイズから 4LDK まであり、価格は 58 万ユーロから。(10月16日付 Wort 紙)
- フィンクルーダーズブートキャンプ (the Fincluders Bootcamp, マイクロファイナンスに特化した 2 週間にわたるフィンテックの合宿。) が 10 月末に開催され、ヨルダン、ケニア、南アフリカ、ジョージアなどをはじめとした世界中から集まった 12 のフィンテックベンチャー企業が参加した。(10月23日付 Wort 紙)

4 大臣等動向

- 5日 ドナルド・トゥスク欧州理事会議長 (Mr. Donald Tusk) がベッテル首相を訪問し、ユーロゾーンやシェンゲン圏に関する政策と欧州の将来について話し合った。(10月5日付 Wort 紙)
- 10-12日 シュナイダー副首相兼経済相、皇太子同妃両殿下率いる経済ミッションにてアラブ首長国連邦訪問。(10月9日付政府広報, 10月22日付 Wort 紙)
- 13-17日 グラメーニャ財務相、皇太子殿下とともにIMF年次総会出席のためワシントン(米国)訪問。IMF理事長のほか、世銀総裁、ブラジル財務副大臣、カザフスタン財務大臣と会談。その後一行はニューヨークにて、当国への進出を計画している保険会社AIGと会談、またグリーン金融分野の取組についてNew York Green Bank社と会談。(10月16日付及び同17日付 Chroniclu.lu 紙)
- 16-18日 ベッテル首相及びシュナイダー副首相兼経済相、モスクワ及びタンボフ(ロシア)訪問。メドベージェフ首相との会談、オープンイノベーションフォーラム出席、過去にルクセンブルク軍人が収容されたことのあるソビエト軍キャンプ跡を訪問。(10月11日付政府広報)

※当国政府機関の公開資料や各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。